

羽ばたけ! TUT2020 報告書

参加プログラム	オーストラリア研修
研修先機関	Monash College, Australia
プログラム名	English and Global Careers Program
研修内容	
① 参加の目的や動機 - 大学院入試に先立って、TOEIC の点数が必要であったために英語学習を始めた。その後このプログラムを見つけ、英語のリスニングやスピーキング能力の向上や、英語学習のモチベーションの維持に繋がればよいと思い、参加した。 - オンラインではあるが、現地の学生や同じプログラムに参加する国内外の学生と交流し、視野を広げたかった。 ② 研修内容 - 通常授業 ➢ 平日 9 時 30 分～14 時 30 分 3 週間 Zoom ➢ 1 クラス 10 人強で Google Docs で資料を共有しながらの授業 ➢ 学習テーマは日によって異なる(Body language, Debate, Presentation etc) ➢ クラス全体で用意された資料の設問やグループワーク、ロールプレイに取り組む ➢ ブレイクアウトルームが頻繁に開かれ、2, 3 名の学生で問題についてディスカッションする - 課外授業 ➢ 不定期なものと定期的に行われるものがある ➢ 毎週水曜に Pronunciation session, 金曜に Communication through music and lyrics ➢ モナシュ Uni の学生の日本語クラブ主催の Conversation session ➢ これらの授業は EGCP の学生向けのものであるが、Monash College 全体に向けたイベントにもいくつか参加できる ➢ 内容はタイトルの通りで、進め方も通常授業とほぼ同じ ➢ 何度か参加した - 講演会 ➢ まだ開催されていないが、参加できる講演会がある ➢ 今年はメルボルン領事館の副領事の方に海外挑戦の意義というタイトルで講演していただける ③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点	

- スピーキング能力
 - 3週間の授業中は絶対に英語を喋らなければいけない環境であり、少人数のブレイクアウトルームが頻繁に開かれたため、英語を話す機会は今までにないほど多かった
 - 多少構文が雑でも伝わるのが大事だと思い、積極的に発言することを心がけた
 - 間違いの後から考え直すことで、自分が使える表現を確実に増やすことができたと思う
 - 日常的に使う会話、例えば挨拶とその返し方や話が聞き取れなかった時の頼み方等、使える機会は多いが今まで知らないかった表現を学んで実践できた
 - 研修前に1日に3つ以上の会話表現を勉強し実践するという目標を立てた。授業で様々な表現を学び、それをディスカッションやその他のグループワークで実践することでこの目標は達成できた。
- リスニング能力
 - 授業中にもリスニングのセクションはあったが、授業中の先生の指示ももちろん英語であり、英語を聞く機会も多かった。プログラム開始前と比べれば、聞き取れる英語の幅も広がったと思う
- 英語学習へのモチベーション
 - 主にディスカッションの場面で言いたいことが英語で言えないもどかしさを感じた
 - 近いところでは英語学習は院試に必要なものではあるが、英語を使えるようになるために英語を勉強したという気持ちが強くなった
 - 今後も英語学習を継続するとともに、英語で会話する機会を自分で作りスピーキング能力の向上にも力を入れていきたい

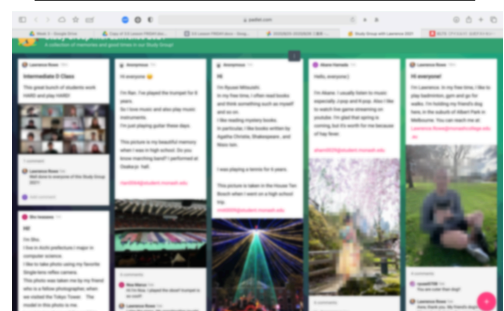
④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

- 授業中の先生の指示や話している内容はおおよそ理解できるが、課外活動で現地学生と話した際、会話のスピードが速く聞き取れないことが多かった。英語音声の映像作品などを通して今後リスニングの練習をしたいと思う
- 継続して英語で会話する機会を作り、スピーキング能力を高めていきたい
- ひとまずの目標は TOEIC でより高い点を取ることであるが、今後は海外インターンや海外の大学院への進学も考えたい
- 今後技科大学内で渡航できる留学プログラムがあれば応募したいと思う

⑤ その他感想など

- 自分は海外に行ったことがなく、オンラインでも毎日英語を使う環境を体験することができてよかったと思う。海外旅行や海外留学への興味が一層強くなった。
- プログラム最後には、参加した学生同士でツールを使いながら改めて自己紹介し、連絡先等を交換する機会があった。技科大の学生は立地や入試の関係からか、外部の学生との交流が多くないと思う。自分

プログラム最後の連絡先交換



の場合は中学卒業後から高専で勉強しているため、友達の大多数は細かい分野は異なるが同じ工学を勉強しており、自分の分野と大きく異なる分野を勉強している友達は今までほとんどいなかった。このプログラムをきっかけに経済学や言語学、文化学を専攻している人たちと知り合えてよかったと思う。自分とは異なる環境にいる人たちと交流することは自分の視野を広げ、選択肢が広がると感じた。もちろんこのことは課外活動を通じた現地学生や先生の交流でも同じである。彼らが話す言葉づかいやものの見方は僕にとって新鮮で、プログラムを通していろんな価値観で物事を考えられる人間になりたいと思うようになった。そのために世界中の多くの人とコミュニケーションが取れる英語を継続して勉強していきたいと思う。